

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校

平成30年7月号

「言ってもやらない、言わなければもっとやらない」。宿題、片付け、明日の準備…など、毎日のことに頭を悩ませているお母さんが多いようです。叱りたくないのに、叱らずにはいられないことに、イライラして疲れてしまうこともよくありますよね。

ことばの教室に来る子どもたちは、障害や自分のできないことと向き合うために来ています。基本的にやりたくないことが中心だからこそ、どのようにしたらやろうとしてくれるか、どうしたら楽しく取り組むことができるだろうかを、常に考えながら子ども達に接するようにしています。

子どものやる気アップのためにできることを、一緒に考えていきましょう。「いつも、必ず」実践するのは、とても難しいことですし、なかなかできません。でも、心の片隅に置いておくだけでも、子どもに対する接し方は変わってくると思います。「子育ては楽しく前向きに！」が合言葉です。

25%ルール

臨床心理士 美和健太郎さんの「ペアレント・トレーニング」のお話から

「叱りすぎかな」と思っている、叱るのをやめることはなかなかできません。そして、「褒めて育てる」と言われても、「叱るところばかりでどこを褒めればいいのかわからない」というのが実情ではないでしょうか。

そこで…
ちゃんと(100%)できたときにはほめてあげよう
↓
少しでも(25%)できたときにはほめてあげよう



に切り替えて、褒めるハードルを下げてください。

宿題を例にあげると、

- 「宿題が終わった」 → 100%
- 「しぶしぶやり始めた」
- 「姿勢が悪い、字がきたないけど、やっている」 → 25%
- 「今休憩しているけど、途中までやった」



褒めるといっても大げさにするとわざとらしくなってしまいます。「ここまでできたね」「やってるね」と言って、見ていることや認めていることを伝えることが一番肝心です。自然に褒められる雰囲気になってきたら、たくさん褒めてあげましょう。

- 他にも、
- 漢字が間違っている→他の正しく書けている字を先に褒める
 - 兄弟ゲンカをした→「ごめんなさい」が言えたら、それを褒める
 - うるさく騒ぐ→別の時に、静かにしている状態を褒める。
 - 明日の準備をしない→返事をしたら褒める、やってなくてもやろうとしたら褒める

など、見方を少し変えると「褒めポイント」が見えてくるような気がしませんか。褒められることによって、嬉しくなって問題行動が減り、叱ることも減っていきます。褒めるに勝る方法はありません。

Q 子どものやる気を引き出すには、どんな言い方をすればいいのでしょうか？

子どもを何とかやる気にさせようと、「あれしなさい」「これしなさい」と言っても、ちっともやる気にならないことがありますね。そういうときは、少しやり方を変えて、「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」という言葉で、方向づけをする、という方法があります。

たとえば、みんなが使う居間に、おもちゃやマンガやお菓子のクズなどが散乱しているとします。子どもはちっとも片付けようとしません。そういうときに、どう言ったらいいのでしょうか。

子どもの方向づけを、「叱る」「怒る」という方法ばかりでしていると、最初は言うことを聞きますが、そのうちに、反発するか、親の顔色を見るようになり、最後は自分の存在は、親を不機嫌にさせる、親を不幸にする、自分なんかいないほうが、親はよほど幸せなんだと思って、自己評価が低くなります。逆に、「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」という言葉で方向づけをしていくと、時間はかかりますが自分の存在は、親の役に立つんだ、親を喜ばせることができるんだ、と自己評価が高くなる、ということです。

現実には、なかなか難しいですが、ぜひ、試してみてください。

アドバイス

時間はかかるようでも、「ありがとう」「うれしいよ」の言葉かけが、子どもの本当のやる気を引き出します。

こんな風書いている私も、家に帰るとつい口うるさく小言をいってしまう母親の1人です。もうすぐ夏休み、子どもと接する時間が長くなりますが、25%ルールを胸に、笑顔で接することができるように頑張ります。

明橋大二 著
「子育てハッピーアドバイス②」より



● 命令、指示を繰り返すと…
● 「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」が大切

随時受け付けています!

白岡市教育委員会
0480-92-1111 (代表)
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017 (直通)

